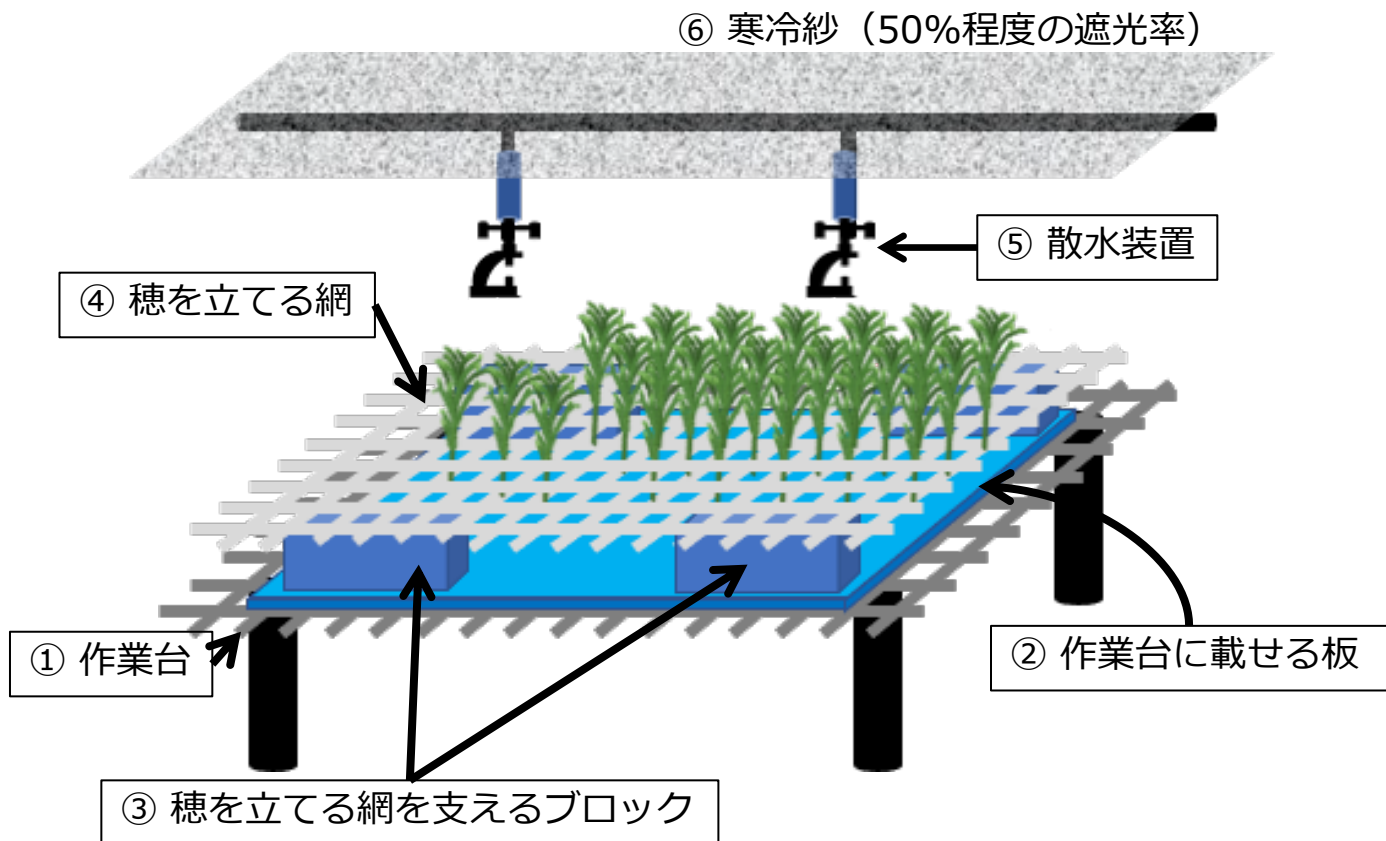
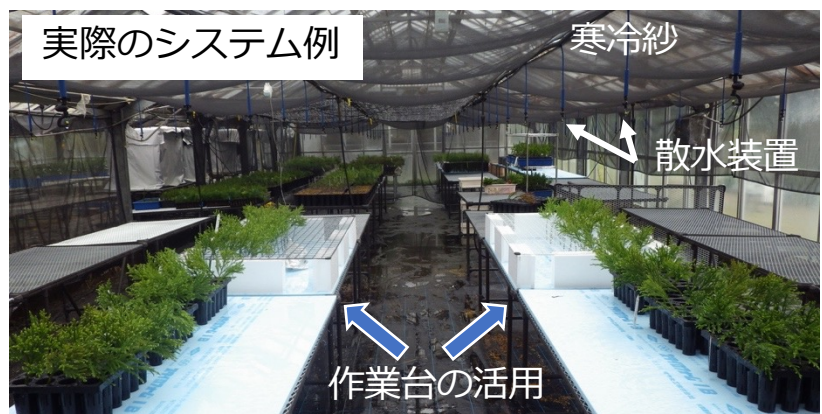


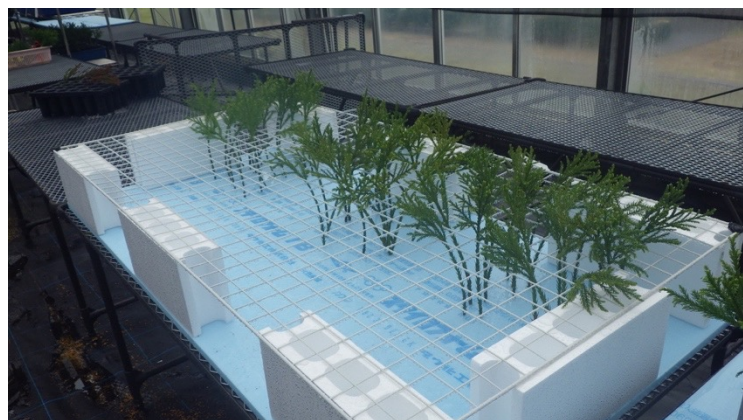
2.システム概略



- ① 作業台を温室、ビニールハウス内に設置する
- ② 作業台の天板が網目状の場合は板を載せる
- ③ 作業台（板）の上にブロックを置く
- ④ ブロックの上に穂を立てるための網を置く
※網と板との間隔は、さし穂のサイズによって適宜調節する
- ⑤ さし穂全体にムラなく水がかかるように散水装置を設置する
- ⑥ 寒冷紗等を使い50%程度の遮光をおこなう

温室の天窓等に汚れがある場合は寒冷紗を用いると**暗くなりすぎる**ことがあるので注意する





【穂を立てる資材】

- ・ 網などを使い、発根状況が目視できると移植のタイミングがわかりやすい
- ・ その他、マルチキャビティコンテナ、Mスターコンテナ等でもさしつけ可能



【散水装置】

- ・ さしつけた穂すべてに満遍なく散水をおこなう必要があるため、散水装置の水滴は霧雨程度のサイズの水滴が適している

作業台を使わないタイプでも発根誘導可能



穂の立てかけに塩ビパイプ等を使用



場合によっては、高温になりすぎないように上を少し開ける

保温・保湿を必要とする時はビニール等で覆う